



山伏・修験道の本尊
蔵王権現入門

総本山
金峯山寺

目次

まえがき 5

第一章 歳王権現さま 9

一、歳王権現さまとは 10

二、歳王一仏信仰 18

三、歳王権現さまのお姿 22

四、歳王権現さまのお力 26

五、歳王権現信仰のはじまり 29

六、歳王権現さまの拝み方 37

七、歳王権現さまとの結縁 49

目次

第二章 役行者と修験道 53

一、役行者とはどういうお方 54

二、修験道とは 61

三、入峰修行とは 67

第三章 吉野と金峯山 71

一、金峯山寺の歴史 72

二、藏王堂 81

三、金峯山寺の法要 85

四、金峯山寺の伝統行事 90

五、金峯山寺の修行会 96

六、吉野の桜 102

七、世界遺産の吉野 110

八、金峯山こぼれ話 112

第四章 脳天さん 115

一、脳天さんとは 116

二、脳天さんのお力 120

第五章 金峯山寺山主の遺訓法話 123

第六章 勤行要典 161

あとがき 186

参考図書 189

カバー写真／旧安禅寺蔵王権現像（金峯山寺蔵）
グラビア写真／金峯山寺蔵王堂秘仏本尊（金峯山寺蔵）

カバー写真撮影／桑原英文
装丁・DTP／岡田京子

まえがき

吉野山から山上ヶ岳までを、古来、金峯山と称しますが、この地は大自然の深山幽谷にいだかれて、清浄なる靈気が蓄えられてきました。

吉野の地は、古くは神仙境として尊崇されてきた聖地でもあります。

神仙境とは、神々や仙人の住むような理想的な土地をいいます。

この言葉には、道教的な響きがありますが、吉野の地にはこの呼称が最もふさわしいと思っています。

神仏は、山にも川にもおわします。

あらゆるものが尊きいのちの発露として、一つひとつのいのちに私たちは礼拝します。

古来より日本仏教では、

「山川草木悉皆成仏」
さんせんそうもくしつかいじょうぶが

と説いてきました。

それは、人のみならず、山も川も草木も、すべてことごとく仏に至ることができるといって教えます。

この大自然そのものは、なんのほからいもありません。

そのままそのお姿が、神仏そのものなのでしよう。

山岳での修行によつて培ってきた修験道は、一言でいえば、

—— 自然を經典とし、自然を礼拝する ——

ところにあります。

そして、その心こそ、日本人の宗教の原点ではないかと思っています。

修験道は、他を排除しようとはしません。

思想がちがう、教義がちがう、生きがちがう、礼拝する対象がちがうといつて、排除はしないのです。

むしろ、すべてを包含していく。

活かしていく。

甦よみがえらせるのです。

そこに、大いなる母性を私は見えています。

母性は、あらゆるものを受け入れ、つつみこみ、そして本源の力を育もうとします。

それが修験の心なのです。

こうした修験の心、山岳宗教のエネルギーが、さまざまな日本の宗教の母体になっけていきました。

私どもは、蔵王権現さまを三世救済の本尊と拝し、帰依しています。

蔵王権現さまは、役行者が今を去る一千三百年の昔、金峯山において一千日の苦行の末、祈りだされた仏さまです。

その蔵王権現さまのなかに、あらゆる仏菩薩、諸尊、天神地祇てんじんちぎが包摂ほうせつされると信じております。

それは母性そのものであり、また大自然の霊威そのものの象徴でもあります。

そしてそれは単にアニミズム的な自然崇拜ではなく、大乘仏教という普遍の真理を「骨格とする」修験道だからこそ、説き得た根源仏なのです。

蔵王権現さまは、まさに自然とともにありながら、神と仏を融合させてきた日本人の信仰心の源ともとらえることができるのです。

その蔵王権現さまへの帰依の手引きとなる本書が、ここに上梓されることになりました。

誠に吉祥であり、信仰者として、心からの喜びを感じずる次第であります。



総本山金峯山寺第二十九世管領

金峯山修験本宗第三世管長

ごじょうかくぎょう
五條覚堯

第一章 蔵王権現さま

◆ 蔵王権現さまとは

●蔵王権現さまとは、一言でいうとどんなお方ですか？

蔵王権現さまは、正式なお名前を、「金剛蔵王権現」といいます。

衆生の三世を救済する仏さまとして、金峯山寺の御本尊となっています。

●金剛蔵王とはどういう意味ですか？

「金剛」とは、「金剛不壊」という言葉があるように、絶対に壊れることのない、輝きを失わず、最強なものを意味します。

「蔵」とは、崩れたり壊れたりすることのな

い不滅の真理を体現していることです。「王」とは、統一する、究極を司るといいう意味です。

すなわち、絶対に壊れることのない、最強で不滅の真理を体現し、輝きを失わず、あらゆるものを司っているお方ということですよ。

●蔵王権現さまは、どのようにして現れたのですか？

役行者えんのぎょうじやが大峯の山上さんじょうがたけヶ岳（現在の奈良県吉野郡）で一日の修行をされたとき、行者の深い祈りに呼応して、そのお姿を現したのです。役行者が、蔵王権現さまを感得されたのです。

第一章 蔵王権現さま

●「感得」とは、どういうことでしょうか？

感得とは感じとることであり、悟り知ることです。信心が神仏に通じて、願いが叶うことをいいます。

深い祈りの霊的な次元から、たしかに蔵王権現さまを実感されたということです。

また、役行者の祈りの力によって蔵王権現さまを出現させた、靈力によって出現させたともいえますよ。

●蔵王権現さまの「権現」とは、どういう意味なのですか？

ほんとうのお姿（本地ほんちといえます）そのものが現れるのではなく、その時、その場所、人々の心の状態に応じて現れることを、「権現」といいます。

その時代、その国土、その地域の人々の心の状態に応じたお姿で現れることをいいます。

ちなみに、「権」とは「一時的、仮に」という意味です。「現」は文字通り「現れる」です。ですから権現とは、「仮のお姿で現れる」とを意味します。

●なぜ仮の姿で現れるのですか？

さまざまなお姿で現れるのは、衆生を救済するためです。衆生を救済するために、その時代、その国土、その環境に住む人々にふさわしいお姿を現すわけです。

蔵王権現さまあの恐ろしいお姿は、悪世に生きる心の曲がった人々に対して、厳しく指導し、魔を粉碎しようというお姿です。

それは、衆生を救済するために現れたお姿なのです。

●蔵王権現さまのほんとうのお姿は、どのようなお方なのでしょう？

恐ろしいお姿の蔵王権現さまですが、それは衆生のために現れたお姿なのです。

ほんとうのお姿（本地）は、慈悲をたたえたやさしいお方です。

ところがやさしいお姿で現れると、悪世の人々は恐れ敬うこともなく、かえって邪見を重ねてしまうので、あのような恐ろしいお姿を示されているのです。

●では、本地はなんといい仏さまなのですか？

蔵王権現さまの本地は、慈悲心に満ちたお釈迦さま（釈迦如来）であり、観音さま（千手観世音菩薩）であり、弥勒さま（弥勒菩薩）なの

です。

すなわち蔵王権現さまは、この三尊の变化身へんげしんとして現れたお方なのです。

●三尊の变化身ということについて、詳しく教えて下さい。

釈迦如来、千手観世音菩薩、弥勒菩薩の三尊の变化身が、蔵王権現さまです。

そして、この三尊はそれぞれ別々ではなく、もとは一つなのです。

●もとは一つとは？

外に現れたお姿は、それぞれ釈迦如来、千手観音、弥勒菩薩ですが、その三尊の心は一つということなのです。

第一章 蔵王権現さま



一つの心が、釈迦如来、千手観音、弥勒菩薩という三つの身体に分かれて、現れたということとです。

三つの身体に分かれていても、心は一つ。

三体の仏たちの心は一つ。

それは慈悲の心です。

その三体の仏さまが融合して、一体の仏として出現されたのが蔵王権現さまなのです。

●**金峯山寺の蔵王堂には蔵王権現さまが三体おられますが、その三尊をあらわしているのですか？**

はい。その通りです。

通常、蔵王権現さまは三世一体でまつられますが、ご承知のように、蔵王堂には特別に三体の蔵王権現さまをおまつりしています。

蔵王権現さまは、三尊が現れたお方なので、

お三体は、三尊をあらわしているのです。

●**それぞれ、どういうお方をあらわしていますか？**

お三体の中央はお釈迦さま（釈迦如来）、向かって右は観音さま（千手観世音菩薩）、左は弥勒菩薩さま（弥勒菩薩）をあらわしています。

●**三体の本尊は、それぞれどういう意味があるのですか？**

お釈迦さまは「過去」、観音さまは「現在」、弥勒さまは「未来」をあらわしています。

すなわち、蔵王権現さまは「過去」「現在」「未来」の三世にわたって、衆生を救うことをあらわしているのです。



●なぜお三方は「過去」「現在」「未来」をあらわしているのですか？

お釈迦さまは、今から二千五百年も前に、インドで修行をされて、悟りをひらかれました。過去に仏に成られたわけです。

ですから、お釈迦さまは、「過去」をあらわします。

では、観音さまはどうでしょうか。

観音さまの「観音」とは、「音を観る」ということです。いまの私たち衆生の音（思い、願い、心）を観て、求めに応じてさまざまに変化身をあらわして、お救い下さるのです。

ですから「現在」をあらわします。

弥勒さまは、どうでしょうか。

弥勒さまはお釈迦さまの滅した後、仏になることを約束された方です。

それは、五十六億七千万年というはるか遠い

未来に仏になられるお方なのです。

ですから「未来」をあらわします。

このように、「三尊は「過去」「現在」「未来」の三世にわたって衆生を救うことをあらわしているのです。

蔵王権現さまは、その三尊の变化身なのです。

●蔵王権現さまのほんとうのお姿は、お釈迦さまと聞いたことがあります。

はい。そういうことも言えるのです。

蔵王権現さまが出現されたとき、役行者に対して、こうおっしゃったと伝えられています。

「私は昔、インドの靈鷲山りょうじゆせんで釈迦如来として、

『法華経』などの真理の法を説いた。

私は、滅することなく現世と来世にわたって、衆生を救うために休むことなく法を説いている。

いま、海に囲まれた日本列島の金峯山で、人々を救済するために、金剛蔵王権現として現れたのだ。」

お釈迦さまはこの日本において蔵王権現さまというおすがたで、出現されたのです。

さらに、過去だけでなく、現在も未来にわたっても、衆生の救済のためにおわし続けるのです。

●お釈迦さまについて詳しく教えて下さい。

すこし難しくなりますが、かんたんに説明します。このことは、『法華経』に説かれていることです。

お釈迦さまは、二千五百年前にインドで生まれました。王子として育ちましたが、すべてを捨てて出家し、三十歳の時、菩提樹ぼだいじゆの下で悟りをひらかれました。そして、さまざまなお話を

第一章 蔵王権現さま

説かれて、八十歳で涅槃ねはんに入りました。

人間のありようとして、老い、病を得て、最期には亡くなり、荼毘だびに付されました。

けれども、真のおすがたは、無限の過去（久遠おんといえます）において成仏しておられたのです。

もともと久遠の昔に成仏していたのですが、衆生を導くために、インドに生まれて修行の姿をしめし、悟りをひらかれたというのです。

お釈迦さまは、久遠という無限の過去から悟りをひらかれていたのです。

そして、滅することなくつねに衆生を救済し、いまも救済しつづけているのです。

●久遠から悟りを開かれているお釈迦さまと、蔵王権現さまは同体なのですか？

その通りです。久遠のお釈迦さまが、衆生を

救済するために日本において蔵王権現さまとして現れたのです。

その意味で、蔵王権現さまとお釈迦さまとは、同体なのです。

●修験道にとって『法華経』は大切な經典なのですか？

お釈迦さまは久遠から悟りをひらかれていたと説く『法華経』こそ、金峯山修験の依よつて立つところの經典です。

『法華経』は、蔵王権現さまの本質をもつともよく伝えているのです。

それゆえ、役行者は修行の根本道場である大峯山脈の最高峯である八経はつきやうヶ岳がたけの頂上に『法華経』を埋められたのです。

八経ヶ岳という山名も、『法華経』の一部八卷の「八」から名付けられたものです。

◆ 蔵王一仏信仰

●蔵王権現さまは、密教の教主である大日如来とも聞きました。

蔵王権現さまは、正式には「金剛蔵王権現」といいます。

そのお名前の「金剛」とは、密教でいうところの「金剛界」をあらわし、「蔵」とは「胎蔵界」をあらわします。

「王」とは統べるということで、金剛界と胎蔵界とを統一しているのです。それが、蔵王権現さまなのです。

金剛界と胎蔵界とを統一しているのは、大日如来ですから、蔵王権現さまは大日如来そのものなのです。

それゆえ、蔵王権現さまは別名「金剛胎蔵王

如来」とも呼ばれるのです。

すなわち蔵王権現さまは顕教と密教にわたっての法王、法主であることができます。

●顕教と密教とは？

顕教とは、お釈迦さまの説かれた教えです。

密教は大日如来の説かれた教えのことです。

大日如来とは、いわば大宇宙そのものを身体とする仏さまです。

お釈迦さまと大日如来は、別の仏さまではありません。信仰的かというと、大日如来という大宇宙を身体とする「真理身」が、人の姿として現れたのがお釈迦さまなのです。

第一章 蔵王権現さま

●蔵王権現さまの本地はお釈迦さままでであり、大日如来ということですか？

その通りです。蔵王権現さまの本地は、宇宙そのものである大日如来であり、久遠の昔に悟りをひらかれた釈迦如来なのです。

また、お釈迦さま、観音さま、弥勒菩薩の徳を一身にそなえた存在が、蔵王権現さまということが出来ます。

さらには、蔵王権現さまのなかに、観音菩薩も地藏菩薩も不動明王など、あらゆる諸仏・諸菩薩・諸天善神がふくまれているのです。

これはすなわち「一即多・多即一」という原理なのです。

●「一即多・多即一」とは？

『華嚴經』で説かれているとても難しい哲理

ですが、かんたんにいうとこんな意味です。

「一即多・多即一」というときの「一」とは、たった一つのものですが、それはすべてを包含した一つです。

その一つは、あらゆるものに遍満しているのです。あらゆるものは、その一つの多様な現れです。

多様なものは、どれをとっても、もとの一つと異なることはありません。

それが宇宙の真相であるという教えです。

●もうすこし詳しく教えて下さい。

たとえば、脳の中には、脳内神経のシナプス（脳の伝達物質）が網の目のように無数に関連し合っています。

宇宙とは、マクロでみると、ちょうど脳内神経のシナプスのようなものかもしれません。

すべてが網目のようになっていて、それらがたがいになつなるいのちとしてつながっている。

——そんなふうにとえられるでしょうか。

そうして、このおおいなるいのち、壮大な宇宙という生命体を、ひとつの仏さまとして表現したとき、それが蔵王権現さまになるのです。

●**そうしますと、すべてが蔵王権現さまに通じているということですか？**

私たちは蔵王権現さまを「法身蔵王ほっしんざおう」とも拝しています。「法身」とは、久遠実成のお釈迦さまであり、大日如来のことです。

それはすなわち、森羅万象です。この大宇宙そのものを身体とする仏さまなのです。

蔵王権現さまという唯一仏のなかに、宇宙のすべてが包含されているのです。雄大無限の唯

一仏といえましょう。

私たちは、蔵王権現さまを拝することによって、大自然、大宇宙と一体となつて、限りない自由な境地を体得することができるのです。

●**蔵王権現さま一仏におまかせすればよいのですか？**

その通りです。「一即多・多即一」の哲理からも、おおいなるいのち、壮大な宇宙という生命体を、ひとつの仏さまとして表現したとき、それが蔵王権現さまとなるのです。

蔵王権現さまを拝することは、すべての仏菩薩、諸尊、神々を拝することになるのです。蔵王権現さまのなかに、すべての諸仏・諸菩薩・諸天善神がつつまれているからです。

また、どなたを拝しても、すべてが蔵王権現さまに通じているのです。

第一章 蔵王権現さま

私たちは、蔵王権現さま一仏を拝し、安心して蔵王権現さまにおまかせすればよいわけです。

これが蔵王一仏信仰の心なのです。

◎身近に縁のある仏さまを拝してもよいのですか？

いま身近に結縁している仏さまを大切にしてください。

その仏さまを拝することは、蔵王権現さまに心を通じることになります。

そうしてまた、蔵王権現さまと深く結縁することによって、いま結縁している仏さまとの絆がさらに深くなるのです。

◎蔵王権現さま一仏に徹することで、安心が得られますね。

繰り返しますが、蔵王権現さまのなかに、すべての諸仏・諸菩薩・諸天神がおられるのです。

蔵王権現さまを拝することは、すべての仏菩薩、諸尊、神々を拝することになります。

蔵王権現一仏信仰に徹することによって、心は集中しやすくなります。

信仰の眼目である「大いなる安らぎ」が得やすいのです。

どうか、唯一仏たる蔵王権現さまに帰依心を集中して、「大安心」の絶妙の境地を得ていただきたいと思えます。

三 蔵王権現さまのお姿

●蔵王権現さまはどのようなお姿なのか？

一言でいうと、忿怒ふんぬの形相です。

怒りに燃えた恐ろしいお姿なのです。

●なぜ恐ろしいお姿なのですか？

強くて恐ろしいお姿をされているのは、人々を威嚇いかくするためではありません。悪魔を降伏させ、悪を粉碎するためなのです。

その恐ろしい一挙手一投足のすべては、悪魔を調伏ちようふくさせるものといえましょう。悪に対しては、とても強い力で粉碎するのです。

ですから私たちにとって、蔵王権現さまは、とてつもない力をいただける、頼りがいのある「護法尊ごぼうそん」「守護尊」なのです。

●もっとくわしくお姿を教えてください。

眼は怒りに燃え、頭髪は逆立ち乱れ、口の両端から牙が刃のように出ています。

右手に三鈷杵さんそしよを握って肩をいからせ、左手に刀印を結んで腰を押さえ、左足はどつかと盤石を踏まえ、右足は大地を高く蹴り上げています。

その背後には、火炎が燃え盛っています。

第一章 歳王権現さま

●そのお姿の一つひとつに、なにか意味があるのですか？

右手に持つ三鉦杵は、天魔を粉碎する相を示しています。

左手の刀印は、一切の情欲や煩惱を断ち切る利剣を示しています。

左足で盤石を踏みしめているのは、地下の悪魔を押さえつけていることを示しています。

右足で宙を蹴っているのは、天地間の悪魔を払っているすがたなのです。

さらに、背後の燃えさかる火炎は、大智慧をあらわしています。

●三鉦杵とはなんですか？

鋭い刃が三つ合わさった強力な武器です。棒状で、中央に柄があり、その上下に槍状の刃が

付いています。

金剛杵こんごうしよともいいます。絶対に壊れることのない、最強の武器なのです。もとは古代インドにおける戦いの道具です。

三鉦杵を持つのは、人々の心を支配する魔のはたらきを粉碎することを示しています。

●刀印とは？

刀印は、手の形で刀を象徴しています。

私たちの心の成長をさまざまに上げる煩惱を、断ち切ってくださいることをあらわしています。

私たちは、あれがほしいこれがほしいと、たえず求めたり、いつまでもぐずぐずと後悔したり、言っても甲斐なきことをあれこれと愚痴ったりします。そうして、不平や不満をたらたらとこぼしたり、すぐにカツとなったりイライラしたりします。

そういう煩惱が、私たちを苦しめているのです。それら情欲や煩惱のはたらきを、ズバツと断ち切ることをあらわしているのです。



三鈷杵



刀印

また私たちに、どんな苦難にも立ち向かっていきなさいという教えも示しているのです。

●金峯山寺の本尊・蔵王権現さまの像について教えて下さい。

金峯山寺の本堂・蔵王堂には、御本尊である秘仏の蔵王権現さまが安置されています。

その大きさは、中央の像は高さが七・二メートル、右の像は六・一五メートル、左の像は五・九二メートルです。まことに威容を誇る三尊仏です。

秘仏本尊としては日本最大で、いずれも重要文化財に指定されています。

●いつ頃つくられたのですか？

第一章 蔵王権現さま

天正十四年（一五八六）に蔵王堂が火災に遭い、すぐに再建が始まりました。

その蔵王堂の再建とともに、三尊仏がつくられたのです。天正二十年（一五九二）頃に完成しました。

●どなたがつくったのですか？

宗印そういん仏師によってつくられました。

この仏師は、豊臣氏滅亡のきつかけとなった寺として有名な、京都方広寺の大仏も手がけており、巨像制作の第一人者であったと思われるます。

●蔵王堂の蔵王権現さまを拝することはできますか？

蔵王権現さまは秘仏なので、御開帳されておられません。普段は幕が掛けられており、じかに拝することはできないのです。私どもは、日々のお勤めは幕越しに礼拝しております。

特別開帳されるときもありますが、その時期は不定期です。平成二十二年九月一日から百日間のご開帳が予定されていますが、それ以降は決まっていません。

ただし、四年に一度ひらかれる密教儀式「伝でん法灌頂ぼうかんじょう会」のときに本宗門の修行者にのみ御開帳されます（平成二十三年秋執行）。

そのときに「千人結縁けちえんかんじょう灌頂」という儀式が催されます。これは、蔵王権現さまと深く結縁を結びたい方のために執り行われる儀式です。

修行者でなくとも、広く一般の方も参加することが出来ます。そのときに、蔵王権現さまをじかに拝することが出来るでしょう。

◆ 四 蔵王権現さまのお力

◎蔵王権現さまのお力とは、どのようなものですか？

蔵王権現さまは、悪魔、煩惱に立ち向かって、それを粉碎するお力があります。そして、衆生の三世を救済する力をおもちなのです。

◎悪魔を粉碎するといいますが、そもそも悪魔とはなんですか？

ここにいう悪魔とは、「悪魔」という特定の存在ではありません。たとえば、人々の苦しみのもととなる悪病や災厄を意味します。苦しみや悩み、迷いを生じさせるはたらき、

いのちの輝きを奪うはたらきを「魔」、あるいは「悪魔」と呼んでいるのです。

◎悪魔は、どこかにいるのですか？

苦しみや悩み、迷いを生じさせるはたらきは、この世に存在します。そして、それは自分の心にも存在しているのです。

たとえば、心の中に巢食う欲望やねたみ、憎悪なども、悪魔といえるかもしれません。

仏教では、それらを「煩惱ぼんのう」と呼んでいます。蔵王権現さまは、悪魔、煩惱に立ち向かって、それらを粉碎するお姿を示しているのです。

第一章 蔵王権現さま

●悪を粉碎する以外に、どういう力をおもちなのですか？

蔵王権現さまは、恐ろしいだけではありません。智慧と慈悲をおもちなのです。

背後の燃えさかる火炎は、大智慧をあらわしています。智慧を火であらわすのは、智慧の焔ほのほで煩惱ぼんごの薪たきぎを焼きつくすということなのです。

そして、御身おんみの青黒色は、大慈悲をあらわしているのです。

●恐ろしさだけではないのですね。

見るからに恐ろしい姿は、ただ怒りに燃えているだけではありません。

その根底には「恕じよ」のころがあります。一切を恕ゆるし育み、人々を導こうという慈悲の心なのです。

蔵王堂に安置されている蔵王権現さまを拝するとき、その巨大さとすさまじさに最初は驚きます。が、やがて心が落ち着いてきて、やさしく包まれている感じがいたします。

じかに蔵王権現さまを拝するとき、おそろしい忿怒の形相の内面に、深い慈愛の御心を感じることができるとでしょう。

●「恕じよ」とはどういふことなのでしょうか？

「恕」はゆるすと読みます。ゆるすには「許」という字もあります。許は、ききとどける、相手の言うことを聞いてやるという意味ですが、「恕」には、相手をゆるす、おもいやる、いつくしむ、あわれむなどの意味があります。

私たちは、日常の暮らしの中で、恕ゆるす心が大きくなるよう心をおさめていきたいものです。

●衆生の三世を救済するとはどういう意味ですか？

三世とは過去世・現世・未来世のことです。蔵王権現さまは、過去・現在・未来にわたって一切衆生を救済されるのです。

衆生を救うために、過去・現在・未来の三世にわたってこの世に出現されるのです。

さらには、私たちの心に起こる過去への後悔、現在の執着、未来への不安や恐れ的心を浄めてくださるのです。

●蔵王権現さまには、どうしてそのようなお力があるのでしょうか？

蔵王権現さまには、諸仏、諸菩薩、諸天の徳がすべて備わっておられるからです。

お釈迦さま、観音さま、弥勒菩薩の徳を一身

に備えた存在が、蔵王権現さまだからです。

さらには、蔵王権現さまのなかに、地藏菩薩も不動明王もおわします。すべての諸仏・菩薩・諸天善神・天神地祇までもが蔵王権現さまのなかに、ふくまれているのです。

●すべての諸仏・菩薩・諸天善神のお力を
おもちなのですか？

お釈迦さま、観音さま、弥勒さまの徳を一身に備えた方が、蔵王権現さまなのです。

蔵王権現さまを拝することは、すべての仏菩薩、諸尊、神々を拝することになるのです。

私たちは、安心して蔵王権現さまにおまかせすればよいのです。

五 歳王権現信仰のはじまり

●歳王権現さまは、いつ、どこで出現されたのですか？

天智天皇が天下を治めていた白鳳年間（六六二〜六七二）の頃、役行者は、御年三十八歳のみぎり、金峯山上（山上ヶ岳）で衆生救済の道を求めて修行しておられました。一千日の苦行をされていたときのことです。行者は、この乱れた世に衆生を救って下さる仏さまを祈り求めておられました。行者の深く祈っておられたとき、その御前に歳王権現さまが出現されたのです。

●役行者は、どのような仏さまを求めていたのでしょうか？

悪世の濁りきった世の中にもっともふさわしい仏さまが出現されることを念じていたのです。降魔ごうまの力のある、悪魔を退治できる本尊となる仏さまを求めていたのです。

●役行者の御前に、どのようにして歳王権現さまが現れたのですか？

役行者の祈りに応じて、はじめに役行者の御前に現れたのはお釈迦さま（釈迦如来）でした。しかし、役行者はお釈迦さまに対して、こう

申し上げました。

「お釈迦さま。この乱れた世の人々には、あなたさまの本当の姿を見ることはできません。

心の猛々しい人々には、あなたさまはふさわしくないのです。どうか、この世の衆生にもっとふさわしいお姿をお示ください」

こう申し上げると、お釈迦さまは忽然^{こつぜん}と姿を消したのです。

●**せっかくお釈迦さまが現れたのに、ふさわしくないと役行者は思ったのですね。**

役行者は、悪世の濁りきった世の中にもっともふさわしい姿の仏を求めていたからです。

そして、さらに祈りました。すると、柔和なお姿の観音さま（千手千眼観音菩薩）が、空中から湧き上がるように姿をあらわしました。

しかし、役行者は再びこう申し上げました。

「観音さま。あなたさまは、すべての徳をそなえ、慈悲に満ち、人々の苦しみを滅してくださる方であられます。

ありとあらゆる姿に変身して、私たちを救済してくださいますが、そのためなおさら、いまの悪世にはふさわしくないので。どうか、この世の衆生にもっとふさわしいお姿をお示ください」

すると、観音さまは姿を消しました。

●**観音さまも、ふさわしくないと思われたのですね。**

そうです。役行者は、さらに祈りました。

すると、次に弥勒さまが姿をあらわしました。弥勒さまとは、慈悲を体現された菩薩です。

お釈迦さまが滅度されて後、五十六億七千万年後に仏さまになれるという菩薩で、未来仏